

FOCUS

追いかける。大学生。

同志社大・2年

まさや

西村 真陽 さん

さすらいのファンタジスタ

西村真陽さん（同志社・2年）は、学内外でファンタジスタの称号を得る活躍を見せる。特定の団体に所属することなく、1人で数々の企画を生み出し、成功に導いてきた。彼の今までの活動を振り返りながら、こだわりに満ちた思いに迫った。



「面白いと思ったことを実行してきただけです」と西村さんは話す。大学内では非常にアクティブなことで知られる。キャリアバックの中には、MacBook Air、iPad、Red Bull、手帳とアイデアノートを常に携帯している。

「卒業後社会に出て、超一流の人と戦える人間になりたい」という志のもと、同志社の門をたたいた西村さん。だが、入学しても刺激がなく、一時は中退することも考えたという。しかし、そんな彼は「自分のやりたいことをやる」という信念のもと、行動を起こしていく。彼が最初に企画したのは、1年生の時の6月に行った「商学部交流

会」だ。商学部には明るく面白い人がたくさんいる。そんな人たちと一緒に騒ぎを起すカルチャーを生み出したという、そういう思いから企画したイベントには100人もの学生が集まり、大成功を収めた。

その後さまざまなイベントを催し、経験を重ねる西村さん。そんな彼に最も記憶に残っていることを尋ねると、「商学部運動会」と答えた。交流会の時からこの企画を行うことを決めていたという。11月に行われたこのイベントには150人近くの商学部の学生が集まった。また、1年生の夏から冬にかけて製作した映像ドキュメント「同志社大陸」も記憶に新しいと

すべては自分を磨くため

いう。ある1人の同志社大生に焦点を当て続けて作り上げた作品は、YouTubeで閲覧できる。同志社の1年生を集めて行った「IcamP」という企画も印象深いそう、今年度も2年生対象に行うとのこと。

このようにさまざまな活動をしてきた彼だが、「しよもないことばかりしてきた」と振り返る。「自分が面白そうだから、やりたいからという理由で行動してきたにすぎない。活動としてイベント企画が主だったが、僕は決してイベントではない」と強調する。彼が求めるのは、世界中どこでも、そしてどの時代でも通用する普遍的なスキル、それとフットワークの軽さだという。「場所を問わずに使えるスキル、そしてどこにでも行ける身軽さ。それを大学生活で養いたい」と力強く語る。

今後の活動としては、見聞を広めるために夏休みにアジアを放浪する予定だという。「明日何が起こるか分からないことになっています。みんなに忙しそうだとよく言われますが、僕の手帳は結構構っていますよ」と彼は笑いながら話す。「予定をたくさん入れていたら、今こうして

取材なんて受けていないでしょ」。

「昨年の暮れで一度活動をストップして、自分を見つめ直す時間が出た。その結果、今まで以上に自分と対話する癖がついた。僕は全ての答えは自分の中にあると思っている。もっと自身を高めるため、さまざまなことをしたい」と目を輝かせた。「自分の人生を全力で楽しんで愛したい」。彼の今までの活動はまだ序章にすぎない。彼の本章はこれから始まる。

(聞き手＝比嘉智也)



大反響だった商学部運動会

UNN関西学生報道連盟

配信・発行 (C) UNN 関西学生報道連盟 (公式HP) <http://www.unn-news.com/>

共同編集室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島 4-2-24 ダイニホンビル 4F

(TEL) 06-6307-1315 (FAX) 06-6829-6353 (MAIL) info@unn-news.com

FOCUSは

神戸大学ニュースネット委員会
同志社大学 PRESS 編集部
NEWS 立命通信社
関学新月通信社
大阪大学 POST 編集部

関西大学タイムス編集部
神戸女学院大学 K.C.Press 編集部
京都女子大学藤花通信編集部
京都大学 EXPRESS 編集部

の共同編集による週刊フリーペーパーです